

自然と共に暮す、学ぶ。大人のための林間学校
HERRANKUKKARO
HEALING STAY IN FINLAND

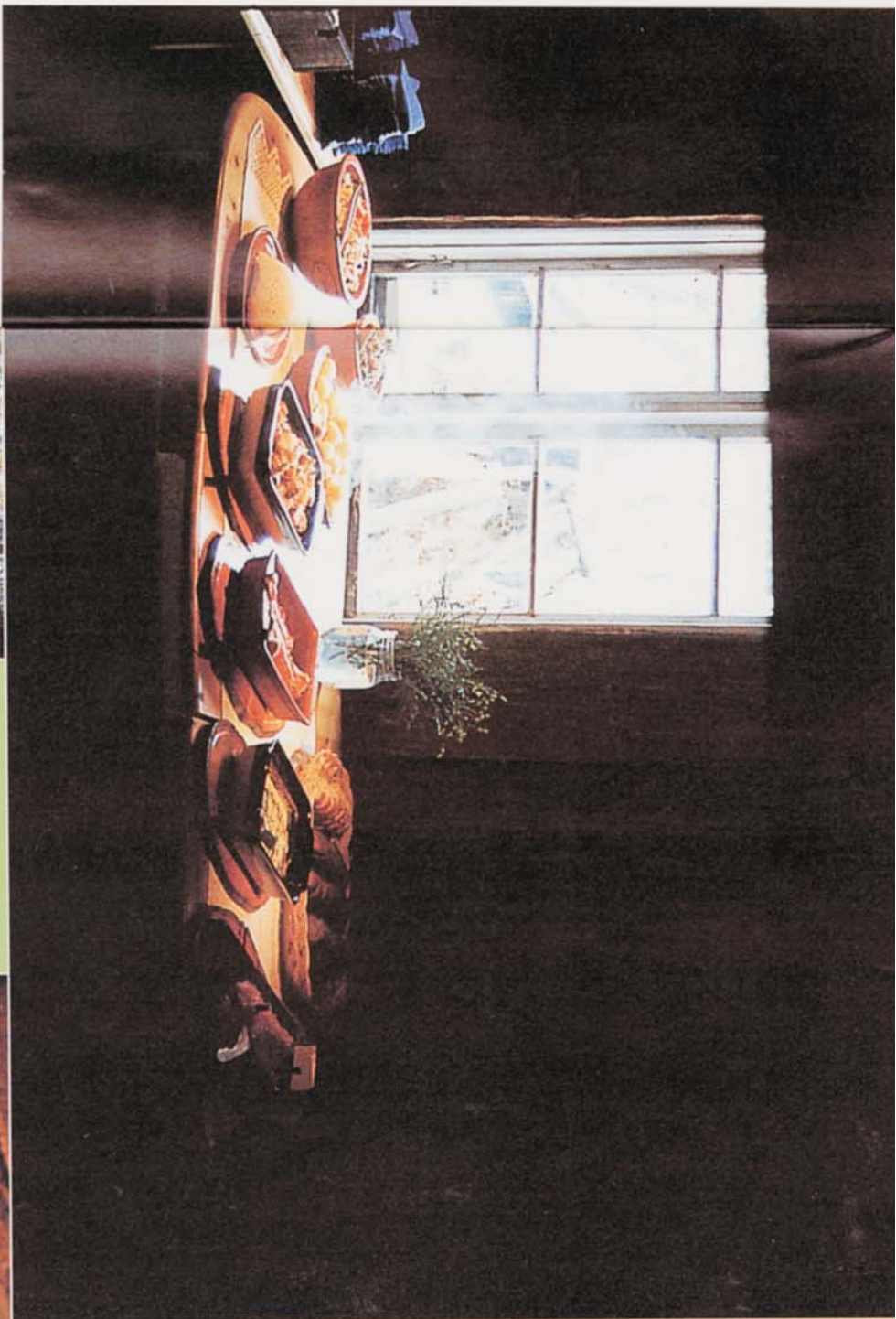


ヘランククカロ
~Old Fisherman's Village~

〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町
〒015-8502 青森県七戸町



フィンランド南西部、古都トゥルクの沖合いには、アーキペラゴ(群島)と呼ばれる約41,000もの島々が点在する地方がある。米河時代から残る古い岩盤からなる大小の島々には、橋がほとんど無く、人や車を乗せた渡し舟が今でも活躍している。橋が無いことが幸いして、昔から変わらない自然がそのまま残るこの地に暮らす人々は、何世代にもわたって漁業中心のライフスタイルを守っている。ナーンタリから近いリマツトワラ(Rymättylä)の無人島アリスマア(Airismaa Island)にあるヘランククカロは「Mamas Pocket」つまり「お母さんのお腹の中のように、世界で一番気持ちの良い場所」という意味を持ち、島全体がまるで昔の漁師村に戻ったようなユニークな空間になっている。ナーンタリはクルクやナーンタリに定期フェリー線を持つ「クルクペンガ」という船舶会社の社長ベンツェイオスカリ・カンガス氏。この島はもとも、彼の別荘だったのだが、趣味が高じてきたものだといふ。そして、ガイドはすべて漁師たち。引退した元漁師もいれば現役もいる。海の男たちからの降り気の無い、でも温かい接待を受け、まずはフィンランドで最も古くから漁が行われていたアーキペラゴ地方に伝統的に伝わる釣りに出かける。網を使った漁法だが、その網も昔ながらの亜麻糸を編んだものを使用している。そして、さすがにフィンランド、昔は泳ぎにも「白樽」を使っていた。海にはアハティ(AHTI)と呼ばれる漁師の神様がいて、呼ばれる漁師連の神様がいて、海に出かけ、網を最初に入れて、時、「神様、大漁でありますよ」と祈り、網に垂れ、網を上げていく。現在でも釣り人は、針に垂れ、そこから釣りを始めるのが、フィンランドでは習慣になっているらしい。釣りから帰った後は、こちらもフィンランドの伝統的なスモーグ・サウナ体験。(46ページ参照)フィンランドはサウナ発祥の国。「サウナ」も実はフィンランド語なのである。煙突ができてからは、電気式のストーブが主流になったが、本物のサウナは約1500年



前からあったといわれているスモーグ・サウナと呼ばれるものなのだ。大自然からの木、水、火、水、石により、スモグも、一気に吹き飛ばす。サウナで熱くなった体は、シャワーの何とも言えない気持ち、良き。なかなかなる。夏は長い長い夏、一日の最後は海を眺めながらのアウトドール・ダイナー。焚火でスモーグしたロケットスモーグしたものと、この地方の伝統料理が並ぶ。ビーチサイド・ラングのほのかに幻想的なものに、変えていく。静寂の中で、昔の人も同じ海を見ていたのだろかかと思ふ。



ヘランククカロは、一言で表現すると、少年の頃に友達と作った遊んだ「秘密基地」を再現しているような場所。予約はグループ中心となる。劇には都立音楽もあるが、一例としては、21人用バスケットボール(部員数は3)をはじめ、木の上にある鳥の巣のような2人用バスケットボールなど、かなりユニーク。サウナは、100人か一組に入ることのできる世界一大きな(?)ものや250年前のサウナなど6つのサウナ小屋がある。

